

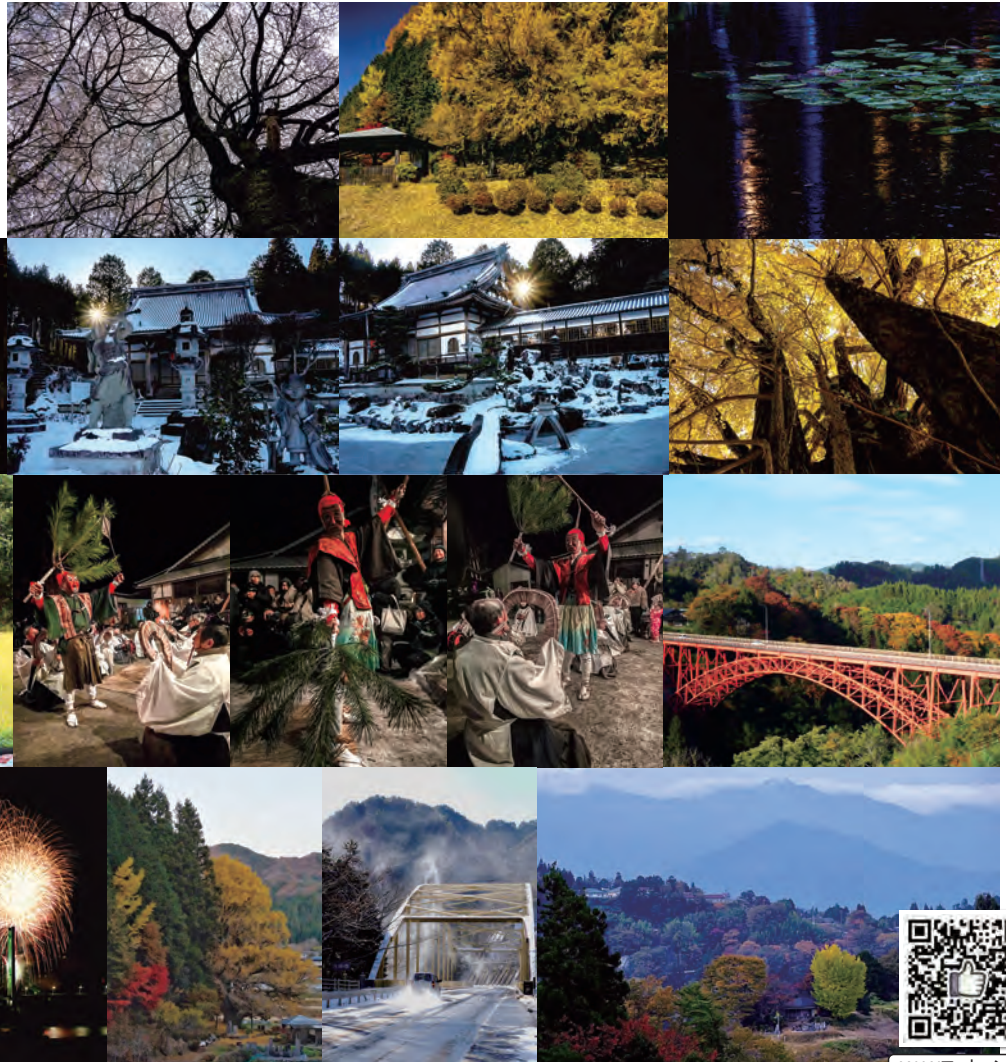
公民館報 No.260

令和8年3月1日発行

A N A N

発行人●阿南町公民館編集部 編集人●公民館報編集委員会 印刷所●飯田共同印刷株式会社
連絡●〒399-1511 東條58-1 TEL 22-2270 FAX 22-2287
E-mail:kyouiku@town.anan.nagano.jp

Contents	
P1	表紙 遊歩道
P2	あなん情報発信局
P3	帯川の話 (西尾実 著)
P4	帯川の話 (西尾実 著) あの人この人
P5	あの人この人・あなんNEWS
P6	あなんNEWS・ お知らせ・編集後記



ANANフォトコン選考 Googleフォーム

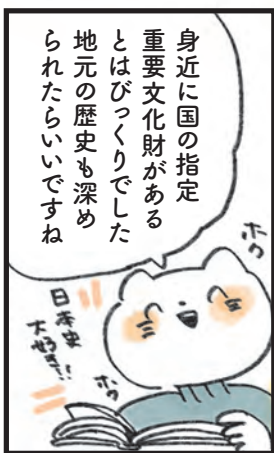
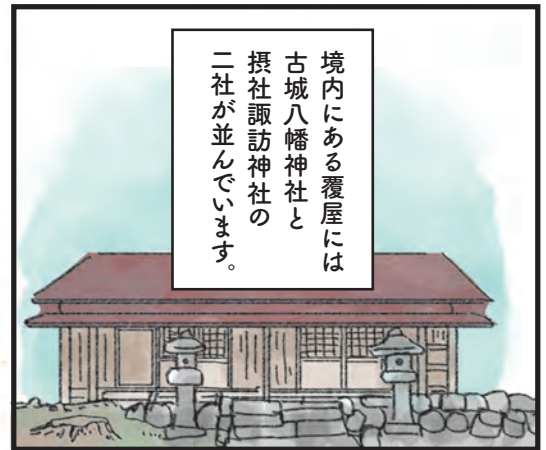
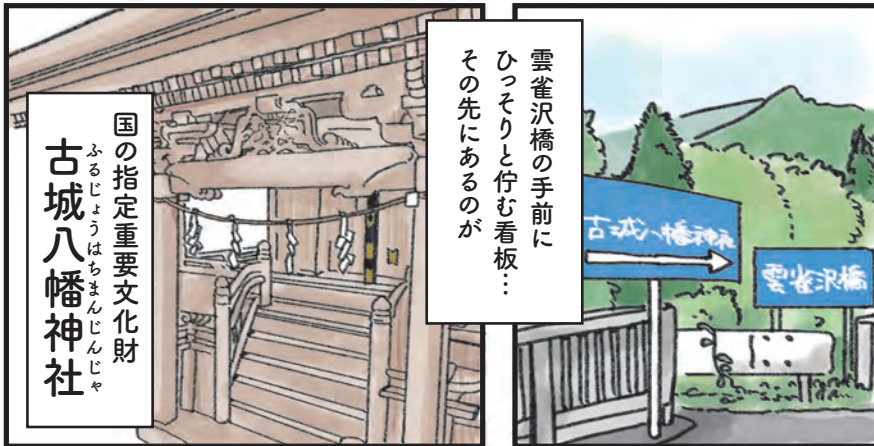
遊歩道

3月といえば卒業のとき。新たな世界への旅立ちの季節。年々進む温暖化の影響か、粉雪が舞ってもすぐ地面から消え、全国的に多い山林火災警報が出されるほど乾燥していた町内、2月上旬から非常に強い寒気が流れ込み、歴史的超短期決戦となった衆院選当日8日は、各地で積雪、極寒の日となった。高市旋風により圧勝した自民党が公約に掲げた『2年限定飲食料

品消費税ゼロ』は超党派の「国民会議」を経て夏前に集約したいという女性初の総理に、「何かを大きく変えてくれるのでは」と期待を寄せる多くの国民の支持が集まった。

当町は、独居老々世帯が増加する中、国からの臨時交付金に一般財源をプラスし、4月から町内で使える支え合い商品券を全町民に配布することを決めた。春、これから町を出て新たな未来へ一歩を踏み出す若者に、いつか帰って来てこの町を支えてもらいたいと希望をこめて、送り出したい。

ANAN情報発信局 「古城八幡神社」



私は歴史や民話などが好きなのですが、阿南町にも国の指定重要文化財があるとは認識できていませんでした。何度もあの看板を見ていたのに…！

今回「古城八幡神社」を調べるにあたり六代目下条氏がアニメ化した漫画「逃げ上手の若君」に登場した小笠原貞宗の血筋だった、室町時代というと金閣寺で有名な「足利義満」がいた時・子供向けに言えば「忍たま乱太郎」の時代。当たり前ではあるけれど、その時代の生活が地元にもあったのかと、他人事から少し身近に感じられる様になりました。

長野県といえば真田氏というイメージもありますがこの飯田下伊那は武田から徳川の領地だったんだなあとその後の歴史も知っておきたいと改めて思いました。まずは「古城八幡神社」へ行ってきます！

絵・文
かなだゆま

著作 西尾 実

帯川の話

〔代々漢方医〕

大石庄太郎 〔後編〕

家伝といえ、もう一つ他所村
来る患者があった。見たところ元
気で、どこが悪いのかわからないよ
うな男の人であったが、来ると、例

の縁端から上ったところで診察を
受けた後、何時もは開いていたこ
とのない下座敷の続きの四畳間に
入って治療を受けるらしい。わたし
は母にそのことを話して、どうい
う病気が尋ねたが、なかなか教えて
くれなかった。そのうちに花柳病
ということばを使って、大石医院
にはその家伝薬があるのだといっ
た。

わたしに限らず子供たちは、苦
い煎じ薬を飲みたがらなかった。そ
こでこの小父は薬局の薬箱の隣り
に、びんに入った薬を二、三種類と、
普通の薬びん五、六本をおいてお
いた。腹が痛いという、苦味チン
キに単舎利別を少し割って薬びん
に入れ、蒸留水でうすめてくれた。
食べもの当りがしたといえ、重曹
と酒石散を別々に包んでくれ、家

へ持って行ってこの粉薬をませてコ
ップに入れ、水をさせばさかんに
泡がでる、そこを飲めばすぐ癒る
といってくれる。時にはびんの水薬
をもらって帰ると、父は、「これは
清気水ではないか。」とからかい半
分にいった。清気水というのは、何
でも清涼飲料の一つであったらしい。
江戸時代には清気散という声のよ
くなる散剤があったことももの
本には見えている。

この大石漢方医院の六代目は、
親切ではあるが度胸が悪いと一般
にいわれていた。怪我人などがく
ると、薬や包帯をもちながら震え
ているのはよいが、いきなり馬鹿野
郎呼ばわりをされなくてはならな
いのは閉口だなどといわれてい
た。わたしも雨上りの夕方、友だ
ちと廂の屋根にかごろじを置き、
その上に並んで座ったからたまら
ない。忽ち、かごろじごと滑り落ちて、
友だちは何でもなかったらしいが、
わたしは雨水が集って流れる溝に
顔を突っ込んだ。家の中からかけ
出してきた母は、泥まみれの顔に
びっくりして、慌ててこの医者と呼
びんできた。が、顔は手拭で拭いたり
洗ったりしているうちに、何でもな
いことがわかったが、右手をくじ
いていたので、早速連れて行って添木
をし包帯をしてくれた。

もう一度わたしがこの馬鹿野郎
呼ばわりをされなくてはならな
かったのは、津兼家の前の道路わきの
大きな丸い石の上から、その日近
所の馬の種付けに引いてきた種馬
に乗ろうとして、片足を鎧に掛け、
もう片足を鞍にかけようとしたけ
れども、馬が子供であるわたしを
みくびって、一足動いたからたま
らない。わたしは、どっとその丸石の
上に背中から落ちてしまった。「し
まった。」と、馬の鞍に両手
をかけた時、大石の庭先から、馬
鹿野郎という声がとんでくるとと
もに、この小父もかけ寄ってきた。

すぐ家の中から出てきた馬主は馬
の口をとらえながら、わたしをその
馬に乗せ、すぐ下の「酒屋」の清水
のあたりまで往復してくれた。

わたしの見知らぬ馬に乗ろうと
した冒険は失敗に帰したが、後で
わたしを乗せて往復したのは、この
馬がわたしをみくびってやったこと
が、この馬の癖にならないためにや
ったことだと聞かされた。

この大石小父は、薬局の南の縁
側に細く光るほどに磨いた「ひご」
で編んだ円筒形の五尺ぐらいの籠
を二つつるして、山雀を飼っていた。
その籠の天井には、小さな巢がつ
るされており、その籠の底にはT
字形の止り木が立てられていて、

水や餌を飲んだりついばんだりし
ていた。家の雑用は何もしないこの
老医が、小鳥の世話だけは自分の
手でしないと気が済まないらしいか
った。晴れた日などには、よくこの
鳥籠の前に立って、小鳥の声に耳
を傾けたり、すこし離れた裏山へ
飛んできて鳴き交す山雀に、巢の
山雀とともに聞き入ったりしてい
た。

この医者は、何時も暇人で、鳥
籠の世話をしていない時は、隣り
の「久保」との境になっている裏口
へ出て、西の方の山や、帯川の川
の流れをじっと見ていた。日当りのよ
い日は、夕方になると、表の庭先
に立って、いつものふところ手をし
て、東の滝川山の方をぼんやり眺
めていることが多かった。前の道を
通る人が、「あの山に何か珍らしい
ものがあるかの。」と、心安立って
尋ねると、「俺はあの山に当たって
いる西日がかげののを見ている。俺
の晩酌の時間になるからだ。」と言
って、家に入って炉端に座るといっ
て、暇な医者の常日ごろは羨まし
がられていた。彼の晩酌の量は一合
と決っていて、炉ばたに木の台を置
き、その台に盃と豆腐汁などを置
いて、独酌を楽しんだ。時にはその
炉端の下座で夜なべする吾一を晩
酌の話相手にもすることもあったが、

決して晩酌の量は多くはしなかった。

この医者には夏になると鮎釣りに熱心で、一度そのために足を骨折して繃帯をしていたことがある。村の人々の薬代は一年に一度で、年取の前の晩と決っていて、その日払えない家では翌年まで延期してもらった。けれども薬代の夜はみんな集る習慣であった。

この医者は患者には極めて親切であったが、その治療には臆病であった。その臆病は患者の治療に当たっている最中、患者を罵詈雑言して安心を得ようとするそういう臆病型で、患者は治療中、「この馬鹿野郎。」を幾度も我慢しなければならなかった。患者は治療を受けに行くことを「また叱られに行く。」と言っているほどであった。

この医者への習慣では相手を褒めるときも、相手を馬鹿野郎呼びをわりをするのだからたまらない。大っぴらに「馬鹿野郎」と呼んで褒めているのだから相手はたまらない。が、この村ではそれで通用してはばからなかった。

この大石家には身体に障害のある気の毒な子どもがあったが、早くなくなつて、後継ぎがなかったの、わたしは幼い時分に貰われることになつていたけれども、この小

父の一種の貴族主義に、その家の子供になろうという気にはどうしてもなれなかった。そこで小父の従兄に当るわたしの父が、満島村からわたしより少し年上の文一君を養子に迎えて来た。

この文一君は、わたしより三つぐらい年上で、満島高等小学校を卒業しており、長兄は後に飯田小学校の教頭になり、次兄は飯田高等女学校の地歴の先生になったような学問のある一家であったから、文一君も大石家の養子になったところから広くもの知りで、大石家には遊び相手がないために、わたしを友達として、何時もわたしの家に入りびたつていた。よくわたしたちは太吉淵に泳ぎに行ったが、川の行き来や、川端の日蔭で、いろいろな話を熱心に聞かせてくれた。

彼は後に医者になつてから、帯川を出て、愛知県の北設楽郡稲武町の武節という所で、病院を開き、後にはその町長にもなつたが、昭和三十九年に七十九歳で逝去された。帯川の大石家の方は昭和の初年以來長らく無人のままであったが、戦後、文一氏の養女の田鶴子さんとその夫君である大石知夫氏によつて継承維持され、精農というにふさわしい着実な経営ぶりである。

あの人この人

令和7年度 阿南町役場 入庁者紹介!



左から 佐々木 一樹さん、田村 晴香さん、立石 幸也さん、鎮西 光希さん

①氏名は?
佐々木 一樹さん (39歳)
所属は?

建設環境課 (国・県関連維持管理、林道・治山事業、河川事業、除雪、地元施工生産・生活基盤整備事業等)
仕事でのやりがいや業務のなかでうれしかったことは?
公務員は、地域社会の基盤を支え、住民の生活向上に直接触

れ、サポートできる仕事です。

建設環境課では、住民にとつて絶対になくなくてはならないインフラの管理等をしており、やりがいを感じています。

何気ないことですが、公務員は感謝の言葉をいただける機会も多く、うれしく感じています。

趣味や休日の過ごし方は?

趣味とまでは言えませんが、暖かい季節はゴルフを、寒い季節はスキーをしています。あと、ゴルフデンレトリバーを飼っており、大きい体に癒されています。

②氏名は?
田村 晴香さん (25歳)
所属は?

民生課 健康支援係で管理栄養士として働いています。主に食事から皆さんの健康をお手伝いすることを目指して働いています。保育園の給食も考えており、美味しく、子どもたちの成長に適した給食が提供できることを目指して頑張っています。
仕事でのやりがいや業務のなかでうれしかったことは?
住民の方に少しずつ顔を覚え

ていただけるようになり、話しかけてもらえることが増えてとてもうれしく思っています。

住民の方にお話した内容を、取り組んでみようと思っただけだときによりがいを感ずます。まだまだ慣れないことも多いですが、一つひとつの仕事をきちんとやっていきたいと思います。

趣味や休日の過ごし方は？

私の趣味はおいしいご飯屋さんを見つかることです。新しい味を求めてお店をめぐり、そのお店や土地の雰囲気を楽しんでいます。

③氏名は？

立石 幸也さん (23歳)

所属は？

総務課 企画財政係 (タクシ
ー券業務、庁舎管理、公用車管理
等)

仕事でのやりがいや業務のなか
でうれしかったことは？

住民の相談等を共に考え、課題等を解決できた時や、老若男女問わず様々な方と関わることで自身の対応力を磨けているこ

とです。また、「全体の奉仕者」という自覚を持ち、住民目線で物事を考えるよう今後も努力します。

趣味や休日の過ごし方は？

ランニング、温泉巡り

④氏名は？

鎮西 光希さん (19歳)

所属は？

阿南町役場 住民税務課で働

いています。軽自動車税や使用料を主に担当しています。

仕事でのやりがいや業務のなか
でうれしかったことは？

難しいと感じていた仕事ができるときにやりがいを感ずます。そして、仕事をしていく中でわからないことや疑問に思ったことを先輩や上司に聞くと私が理解・納得のいくまで教えてくれることがうれしいです。

趣味や休日の過ごし方は？

私は、ドライブが好きなので休日にはドライブに行くことが多いです。友達とドライブを楽しんだ後にきれいな夜景を見に行ったりして気分転換をしています！

あなんNEWS



1月1日(木) 富草門原

新春走ろう会開催!

阿南町富草門原地区で48年続いている「新春走ろう会」があった。今年で48回目を迎える大型新春イベント事業で地区内外から多くの参加があり大盛況で実施された。この大会は昭和54年1月1日に第1回を開催。当時陸上・駅伝競技に精通していた同地区在住の皆さんの方々の町の門原地区の元気さ、活性化、青少年の体力強化、育成

等多くの目標・目的を掲げてスタートしたもので、長野県下でも門原だけの事業!

門原走ろう会、門原分館事業として開催、国道151歩道特別コースを設定して、それぞれの距離を走り、歩き、今年午年の健康、安全、健闘を誓いあう楽しい半日であった。

大下条 大平から走って参加の城田 陸斗さん(飯田OIDE長姫高等学校 陸上部)は、今年もこの大会を通じて頑張って走り「是非、長野県縦断駅伝で地元のために出場したい。来年も参加したい」と元気よく話し意気込んでいた。

「町駅伝も、是非歩道コースでよいのでこっちの方までこんなあ」という参加者の声もあった。「今年午年うま(馬)いくくと阿南町に元気出ること確かか。」とは参加者の声多数。初参加の地元富草小の熊谷 眞絃さんは「来年は優勝したい」富草保育園の松下 律さんは「眞絃ちゃんが目標、練習しっかりやる」と話した。とにかく若さ一杯の正月行事でした。

新春走ろう会 結果

1.3 kmの部

- 1位 熊谷 和真(富草小)
- 2位 熊谷 眞絃(富草小)
- 3位 松下 律(富草保育園)

毎年恒例となっている、和合演芸大会が開催されました。町からの健康講話や楽器演奏・歌などの演目が発表されました。楽しく賑やかな雰囲気で行われました。



**主催 和合公民館
和合演芸大会**

2月14日(土)

- 2.0kmの部
- 1位 伊藤 栄哉 (富草小)
 - 2位 熊谷 凜生 (阿南一中)
 - 3位 熊谷 完太 (富草小)
- 3.6kmの部
- 1位 城田 陸斗 (飯田OIDE長姫高校)
 - 2位 林 朝日 (飯田風越高校)
 - 3位 村山 大地 (飯田風越高校)

**令和7年度
藤本四人記念
小中高生写真賞**

飯田下伊那地域の小中高生を対象にした写真の公募展「藤本四八記念小中高生写真賞」の表彰式が2月7日、飯田市の美術博物館講堂で開催され左記のとおり町内の中学生が表彰されました。

【中学生の部】水谷章人特別賞

作品名 「燈(ともしび)」

阿南第一中学校 3年生
勝又 大耀さん



【高校生の部】飯田市長賞

作品名 「コンヒプレー」

飯田女子高校 3年生
佐々木 眞子さん

おしらせ

5月4日(月・祝日)

オーケストラと友に

音楽祭 2026

コミュニティ
コンサート

開催決定!

時間 午後6時 開演

(午後5時半 開場)

会場 阿南文化会館

入場料 町内在住者無料

町外者 500円

お手伝いいただけるスタッフ実行委員を募集しております!お手伝いいただける方は、電話(22)270、または左記フォームによりご連絡ください。



スタッフ申込みフォーム

編集後記

わら細工「みごぼうき」

先日、阿南町公民館主催のわら細工ワークショップが、かじかの湯 化石展示館にて行われました。新野の興亜エレクトロニクス(株)の「旦那の里」職員による指導により行われました。大勢の皆様に参加をいただき皆で話をしながら楽しくできました。

材料は「旦那の里」で用意をしていただき【みご(稲穂)】の束を20〜30本ぐらいつつ8束用意してその束を1組毎組みながら紐で絞めていき、8束組み終えると持ち手になる部分を色紐にて巻いて、最後に掛け紐をつけて出来上がりです。まあまあのお出来でした。

来年度も年4回くらい行いたいと思います。公民館よりお知らせいたしますので皆様のご参加をお待ちしております。よろしくお祈りします。

